

厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究

— 視覚系補装具勉強会の開催報告およびアンケート調査 —

研究分担者 山田明子 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部
研究協力者 清水朋美 国立障害者リハビリテーションセンター病院 第二診療部
松井孝子 国立障害者リハビリテーションセンター病院 リハビリテーション部
齋藤崇志 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 障害福祉部

研究要旨

視覚系補装具や日常生活用具については制度も含め知る機会が少なく、それぞれがどのような支援と結びついているか、また、どのように処方され活用されているかといった正しい知識は、眼科医療に携わる眼科医や視能訓練士、看護師等の医療関係者でも理解が不十分であるという現状がある。

補装具や日常生活といった視覚障害に関する福祉用具等に関する情報共有を目的として、福祉用具を利用する視覚障害者、選定や支給に関わる医師や視能訓練士、看護師等の医療関係者等、福祉用具に関わるすべての者を対象とした勉強会を昨年度からの継続事業として、令和6年9月から令和7年3月にかけて計7回実施した。

今年度は918名の登録があり、補装具や日常生活用具についての関心の高さが示された。勉強会の内容についての評価も各回ともに「非常に良い」「良い」といった良好な評価を示す割合が8割を超え、有用な勉強会の内容であったことがわかった。また、好きな時間に学習ができるオンラインでの勉強会視聴数が各回ともに6割以上と多かった。

以上のことから、補装具や日常生活用具といった福祉用具への関心は高く、これらに関する情報を得たいと考えた時に、すぐにアクセスできるような場の構築が必要であることが示唆された。

A. 研究目的

視覚障害に関連する補装具には「視覚障害者安全つえ」「義眼」「眼鏡」があり、眼鏡は、矯正用、遮光用、コンタクトレンズ、弱視用に分類される。

視覚障害に関係する補装具や日常生活用具といった福祉用具については、その存在自体は知られているが、それぞれがどのような支援と結びついているか、また、どのように処方され、その後、どのように活用されているかといった情報は、眼科医療に携わる眼科医や視能訓練士、看護師等の医療関係者でも理解が不十分であるという現状があることが示されており、補装具や日常生活用具といった福祉用具について、制度も含め知る機会が少ないことが原因であるとされている。このような問題点を受けて本研究班では、昨年度より補装具に関わるすべての者

を対象に、視覚障害に関連する補装具等についての勉強会（以下「視覚系補装具勉強会」）を実施してきた。

昨年度の勉強会報告¹⁾より、同様の勉強会が開催される際には、参加を希望するといった割合が9割を超え、補装具や日常生活用具への関心は高く、補装具や日常生活用具に関する情報を得ることのできる場を提供することの必要性が示唆された。

そこで、今年度においても、令和6年9月から3月において計7回、補装具や日常生活等に関する情報共有を目的に視覚系補装具勉強会を継続した。

対象者は、昨年度と同様に、補装具を利用する視覚障害者、選定や支給に関わる医師や視能訓練士、看護師等の医療関係者、訓練に関わる歩行訓練士や機能訓練専門職、販売を担う販売業者、その他、視

覚障害者当事者家族、支援者、盲学校等の教育関係者等、補装具に関わるすべての者とした。

本報告では、今年度実施した勉強会の開催内容について報告するとともに、その勉強会の効果の把握と今後の勉強会の課題抽出を目的として行ったアンケート調査について報告する。

B. 研究方法

b-1. 視覚系補装具勉強会開催内容報告

令和6年度に実施した7回の視覚系補装具勉強会の開催までの準備に関する経緯とその内容について報告する。

b-2. 視覚系補装具勉強会評価アンケート調査

アンケート調査は、オンラインでのアンケート（Google フォーム）を作成し、第1回から第6回の視覚系補装具勉強会参加登録者918名へ電子メールで回答を依頼した。

視覚障害等の理由でGoogle フォームでの回答が難しい場合の対応として、メールでの回答フォームを準備した。回答期限は令和7年4月20日とした。

各アンケートでは、参加者の年齢、在住地、職業等の属性、勉強会への参加方法、各勉強会内容についての評価を選択肢方式で調査した（資料1）。

また、自由記述として「その他意見」を調査した。

（倫理面への配慮）

アンケート調査にあたっては、国立障害者リハビリテーションセンター倫理審査委員会で承認を得た（承認番号2024-064）。

C. 研究結果

c-1. 視覚系補装具勉強会開催内容報告

（1）令和6年度視覚系補装具勉強会内容について

令和6年9月から令和7年3月までに計7回の補装具に関するテーマでの勉強会をオンライン（ZOOM）で実施した。

勉強会の様子は録画を行い、後日、登録者限定としてオンデマンド（YouTube）で公開を行った。

各回の内容を以下に示す。

① 第1回

日時：9月19日（木）18：00～18：50

テーマ：小児の眼鏡—補装具と治療用眼鏡—

講師：国立障害者リハビリテーションセンター病院
視能訓練士長 松井孝子

② 第2回

日時：10月17日（木）18：00～18：50

テーマ：視覚障害者の補装具および日常生活に関する実態調査報告

講師：大阪教育大学 准教授 奈良里紗

③ 第3回

日時：11月21日（木）18：00～18：50

テーマ：補装具としてのコンタクトレンズ—現状と課題—

講師：かまいしベイ眼科クリニック
院長 佐渡一成

④ 第4回

日時：12月12日（木）18：00～18：50

テーマ：義眼について学ぼう 第2弾

講師：株式会社日本義眼研究所
代表取締役補佐・技術 水島奈央子

⑤ 第5回

日時：1月16日（木）18：00～18：50

テーマ：他障害について学ぼう 聴覚障害者への公的支援

講師：国立障害者リハビリテーションセンター病院
副院長 石川 浩太郎

⑥ 第6回

日時：2月20日（木）18：00～18：50

テーマ：リアルユーザーから学ぼう 補装具・日常生活用具の活用報告

講師：補装具・日常生活用具ユーザー
白井 夕子 松浦 利実

⑦ 第7回

日時：3月13日（木）18：00～18：50

テーマ：ロービジョン関係者間の連携について

講師：株式会社エッセンバツハ光学ジャパン

社長 佐藤 亮

(2) 事前準備

① 講師との連携について

勉強会開催前に、各勉強会の講師ごとに事前ミーティングを実施した。

ミーティングには、参加可能な本研究協力者も参加し、勉強会の目的を共有した。

講義については、それぞれの補装具（日常生活用具を含む）について、正確な知識を紹介すること、給付を受けたあと、継続して使用するにはどうしたらよいかに焦点をあてた内容を盛り込んでいただくことについて共有した。

また、さまざまな視機能を持つ参加者への対応として、見やすいフォント、サイズの文字を用いることや全盲等でスライドを確認することができない場合もあることからスライド画面に書かれている内容は原則としてすべて説明をすることを確認した。

②参加者募集と登録について

令和5年度の視覚系補装具勉強会に登録している1,651名に対して、メールで参加者募集の案内を行った。メールは転送可能とし、周囲で視覚系福祉用具に興味のある方へ知らせてもらえるよう周知した。

登録については、Googleフォームを用いて行った。昨年度の勉強会の報告¹⁾において、回ごとに何度も登録を行うことは大変であるという意見を受け、今回は1回の参加登録を行っていただいた後は、その後のすべての回の当日参加用アクセス情報とオンデマンド（YouTube）視聴情報を、登録者のメール宛てに送ることとした。

昨年度の勉強会登録時と同様に、視覚障害等のためにGoogleフォームでの登録が難しい場合には、メールでの申し込みも可能とした。具体的には、参加登録に必要な情報を勉強会専用のメールアドレスへ連絡をもらい、勉強会運営スタッフが代理登録を行

った。

(3) 視覚障害を持つ参加者へのアクセシビリティ対応

令和5年度の視覚系補装具勉強会報告¹⁾より勉強会の登録や参加時やアンケート回答時において視覚障害によって、困難を感じる場面が存在していることが報告され、様々な視機能の視覚障害者への協力を募り、誰もが共通に情報を得ることができる情報提供における環境作りについて考えていく必要性が示されていた。

そこで、今年度は、視覚障害者への配慮に詳しいイベント運営会社へ支援を依頼し、募集フォーム等が音声読み上げ機能に対応しているか、オンライン（ZOOM）へ問題なくアクセスできるかの動作検証を事前に実施した。

具体的には、4名の視覚障害当事者にご協力をいただいた。4名のうち2名は音声読み上げ機能を活用する全盲の方、2名は視力低下にあわせて、視野狭窄や中心暗点といった視野障害を持ち、音声読み上げ機能と画面拡大機能を活用する方であった。

音声読み上げ機能を活用した場合や画面拡大機能を使用して確認した場合にも、わかりやすいよう1つの文章を短くする、拡大した時にも確認しやすいよう1行の文字数を短めにして改行するといった案内文面の改良を行った。また、各項目の頭に「■」の印をつけることにより、画面読み上げ機能を使用した際、読みたい項目を選択できるよう工夫した。

(4) 登録者数と参加者の推移について

勉強会の当日ライブでの参加者人数とオンラインでの動画視聴数（令和7年4月21日現在）を表1に示す。

当日のライブでの参加者数はすべての回で100名を超えていた。

すべての回でオンラインでの動画視聴数が当日ライブ参加数よりも多かった。

表1 登録者数とオンライン動画視聴数の推移

	当日ライブ 参加者（人）	オンライン 動画視聴数(回) (令和7年4月21日現在)
第1回	224	863
第2回	168	559
第3回	132	473
第4回	115	406
第5回	112	430
第6回	126	321
第7回	106	288

C-2. 視覚系補装具勉強会評価アンケート結果報告
各回のアンケートの回答数と回答率を表2に示す。
回答率は回答数を表1で示した参加者数とオンライン
動画視聴数の合計で割って求めた。平均回答率は
20.7%であった。

表2 アンケート回答数と回答率

	回答数	回答率
第1回	191	17.6%
第2回	148	20.4%
第3回	116	19.2%
第4回	111	21.3%
第5回	114	17.8%
第6回	105	23.4%
第7回	98	24.9%

(1) 年齢分布について

年齢分布を図1に示す。21歳以上から80歳までの幅広い年代の方が参加していたことがわかった。

(2) 在住県について

全国47都道府県から回答を得られた。

(3) 所属について

回答者の所属について図2に示す。

各回ともに視覚障害者当事者の割合が最も多かった。眼科医、視能訓練士、看護師といった医療関係

者のほか、教員など様々な立場の方が参加していることがわかった。

「その他教育関係者」には、眼鏡技術専門学校講師、専修学校教官、視覚支援学校の非常勤講師、「その他の職種」としては、社会福祉士、メーカー、機器業者、福祉機器販売業者、当事者団体職員、盲ろう通訳介助者、NPO役員、区役所の障害者福祉担当、地域活動支援センター指導員、視覚障害者向けディスクライバー（映画やテレビの音声ガイド製作者）等があった。

(4) 参加方法について

回答者の参加方法について図3に示す。各回ともに6割の回答者がオンライン動画での視聴をしていたことがわかった。

一方、当日のライブでの参加した者は、各回ともに約3割であり、数は少ないが、後日オンライン動画でも視聴するケースもあったことがわかった。

(5) 勉強会内容についての評価について

各勉強会の内容評価について図4に示す。各回ともに、「非常に良い」「良い」といった良好な評価を示す割合が8割以上であった。

第5回の勉強会では、「非常に良い」との評価が73.7%と高評価であった。

(6) その他

自由記述とした「勉強会へのご意見」を回ごとに表3～9に示す。

D. 考察

視覚系勉強会は令和5年度からの継続した取り組みであり、視覚系補装具に関連するすべての方へ向けた補装具および補装具費支給制度、そして視覚系補装具を取り巻く様々な問題等の情報周知を目的として実施した。

今年度は918名の登録があり、アンケート調査から昨年度と同様に幅広い年代や様々な職種や立場の方が参加していたことがわかった。

また、各勉強会への参加については、各回ともに後日のオンラインでの動画視聴が多数を占めていたことがわかった。リアルタイムだけでなく、オンラインで後日、好きな時間に視聴が可能であったことにより、多くの方へ情報を共有することができたのではないかと考えられた。

視覚障害に関連する福祉用具等の情報提供は今後も引き続き必要と思われるが、その際には、情報を得たいと考えた時に、すぐに好きな時間に必要な情報にアクセスできるような場の構築が必要であることが示唆された。

また、各勉強会の内容についての評価については、各回ともに「非常に良い」「良い」と言った良好な評価を示す割合が8割と評価は高く、有用な勉強会の内容であったことがわかった。

今年度は、昨年度と同様に、視覚系補装具と補装具費支給制度や視覚障害に関わる日常生活用具の基本的な知識の情報周知を軸とするとともに、視覚系補装具に関連した幅広い分野からテーマを選定した。

そして、眼科医師、視能訓練士といった眼科医療関係者の他に、補装具を利用するユーザーや補装具を製造または販売する業者、視覚障害児教育に携わる研究者、耳鼻科医師といった様々な立場の方に講演をお願いした。

第5回「他障害について学ぼう 聴覚障害者への公的支援」は、同じ感覚障害である聴覚障害に焦点をあてた講義であり、視覚系補装具から離れたテーマであったが、アンケートの勉強会の評価では、「非常に良い」が7割以上と他の回に比べて評価が高く、関心の高さがうかがえた。

視覚障害を生じる疾患の中には、聴力の低下等の聴覚障害を合併する疾患もあるが、聴覚障害の詳細や聴覚障害者に対してどのような公的支援があるのかについては、学ぶ機会がほとんどないのが現状である。聴覚障害についてや聴覚障害者への補装具について学ぶことにより、視覚系補装具にもつながる新たな学びや気づきの機会となったのではないかと考えられた。

また、第2回、第6回では、日常生活で視覚障害に関する福祉用具を活用しているユーザーの利用実態

に焦点をあてたテーマで勉強会を行った。

眼科医や視能訓練士等の医療関係者は、補装具の選定や処方を行うことの多いが、その後、処方された補装具を患者がどのように活用しているかの把握やフォローアップを行うことは少なく、その仕組みも十分に整っているとはいえない現状がある。

補装具費支給制度を利用して購入した補装具は、社会参加において、継続して活用されることが必要であるが、継続して活用していただくためには、まずは利用者の現状を知り、フォローアップなどの継続活用を促す仕組み作りが必要と考える。

勉強会への意見からは「補装具を申請された方の生の意見を聞くことができて良かった」といった意見がみられ、利用者の現状を知ることのできるこのような情報の共有も重要であると感じた。

補装具費支給制度の適切な活用の整備には、選定や処方を行う眼科医師や視能訓練士といった医療関係者だけでは難しいと思われる。本勉強会を通して、改めて視覚障害に関連した福祉用具に関わるすべての人が共に学び、その解決方法を一緒に検討していく機会を創出することが必要ではないかと考えられた。

E. 結論

眼科医療分野や視覚リハビリテーション分野等、視覚系の福祉用具に関わるすべての方面において、視覚系補装具や日常生活用具といった福祉用具について知る機会が少ないという問題点を受け、計7回の視覚系補装具および日常生活用具に焦点をあてた勉強会を実施したところ、918名の登録があった。

補装具や日常生活用具への関心は高く、補装具や日常生活用具に関する情報を得たいと考えた時に、すぐにアクセスできるような場の構築が必要であることが示唆された。

F. 健康的危険情報

(分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権に出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

I. 参考文献

1) 山田明子, 清水朋美, 松井孝子, 齋藤崇志. 視覚系補装具勉強会の開催報告およびアンケート調査, 令和5年度厚生労働行政推進事業費補助金「技術革新を視野に入れた補装具費支給制度のあり方のための研究」分担研究報告 1-21, 2024.

https://mhlwgrants.niph.go.jp/system/files/report_pdf/202317049A-buntan08.pdf

(令和7年4月24日参照)

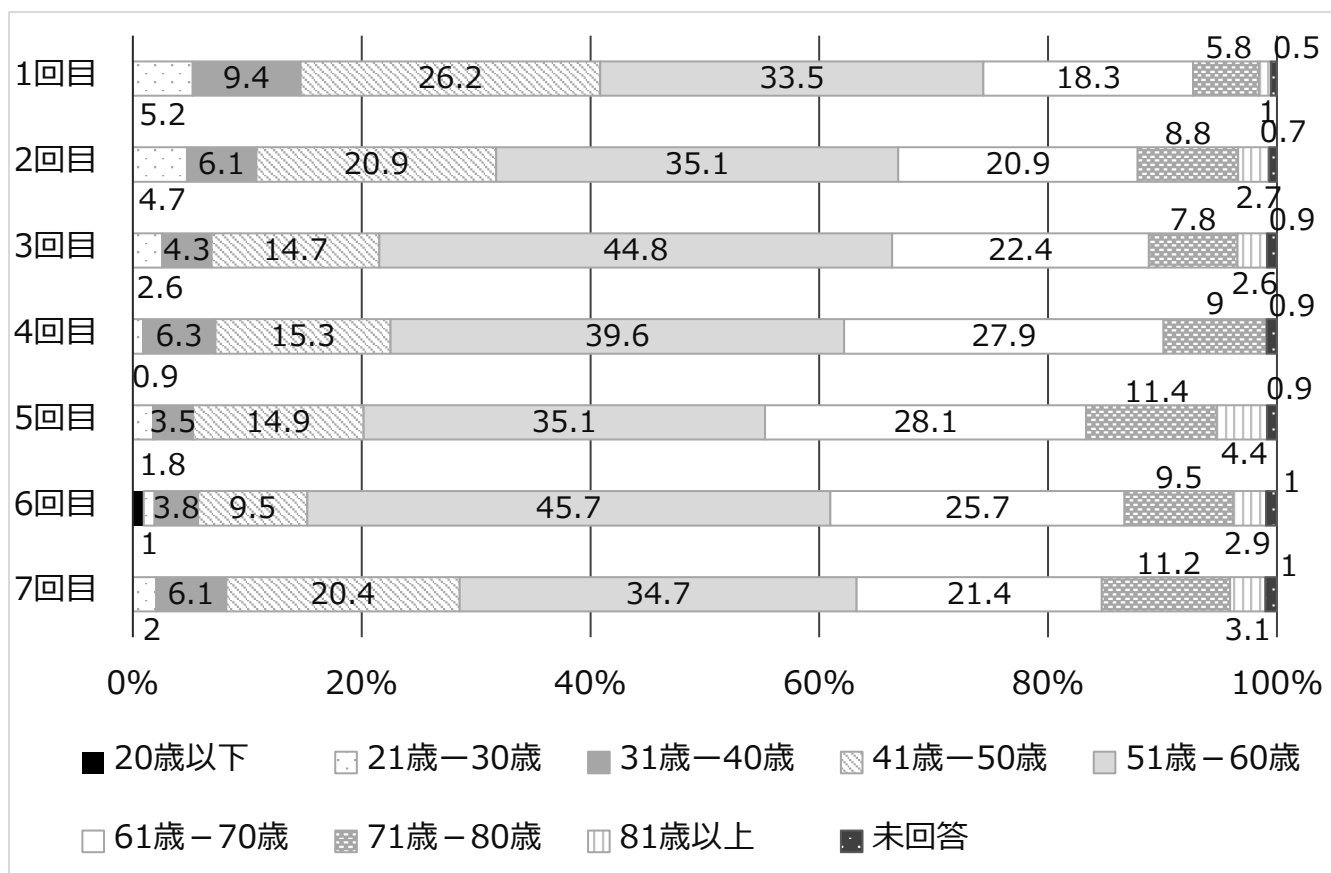


図1 回答者の年齢分布

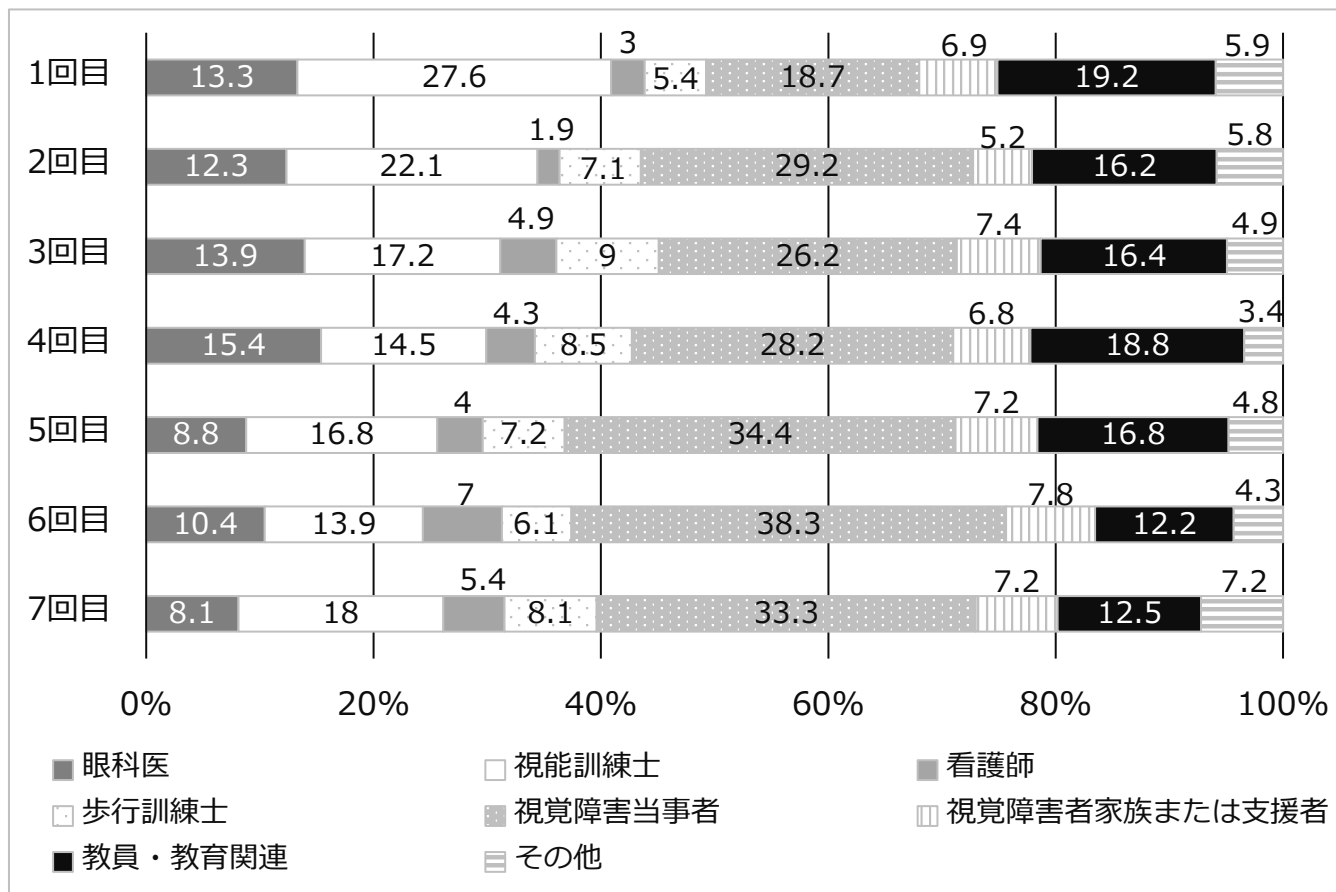


図2 回答者の属性

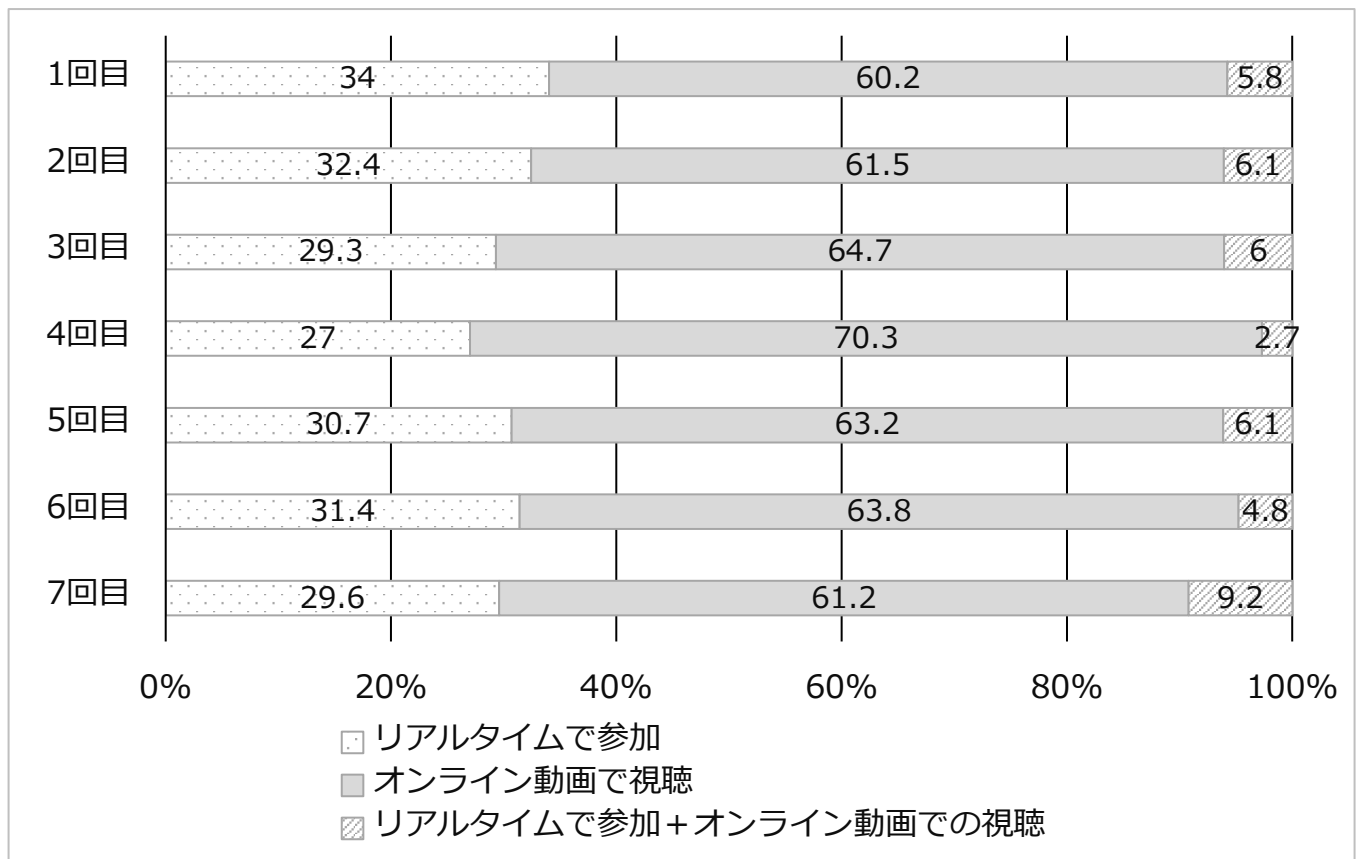


図3 回答者の参加方法

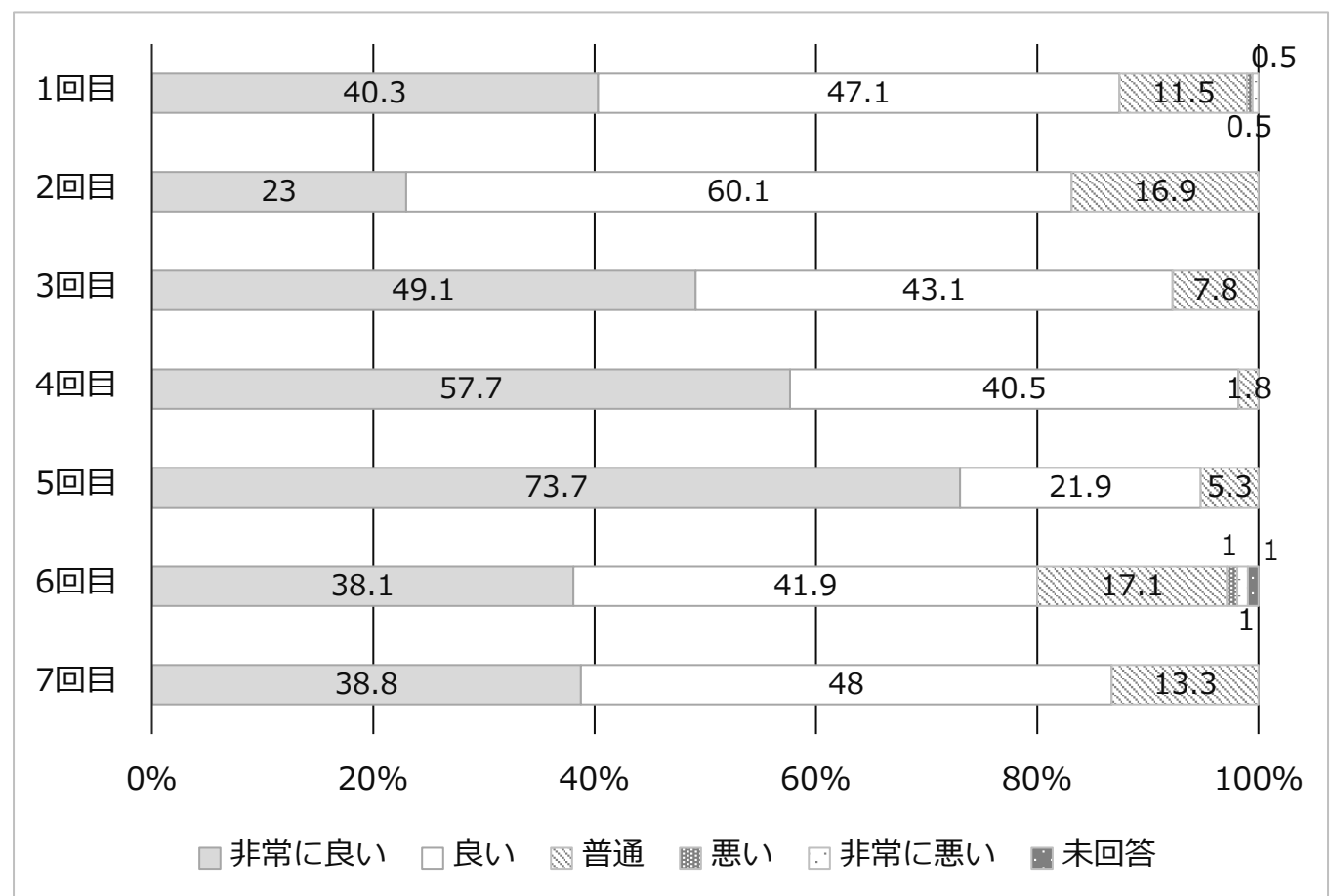


図4 回答者の勉強会評価

表3 第1回「小児の眼鏡―補装具と治療用眼鏡―」についての意見

良い研修を企画してくださってありがとうございました。

勉強になりました。

児の視覚障害者に対する補装具を始めとした補助具を考えるというより、小児眼科を全般的に考える中で視覚障害児とはいかなるものかを論じていたようだ。視覚系補装具勉強会のひとつではあると思うが、小児眼科の勉強会ではないのもう少し違った視点から児に対する視覚系補装具を議論したほうが目的に叶ったのではないだろうか。児には障害者手帳が交付されることは少なく、成人のように補装具や日生具を利用できる機会は少ない。しかも成人以上に、彼らのために独特に工夫された道具を使わなければならないケースが多々あり、そういった独特の工夫が児の日常生活には有用であったという話はよく聞く。小児医療センターや療育センターでは児のために独特の工夫をしているケースもあって、そういった実例を多く紹介したほうが今回の目的には叶っていたように思う。そういった意味では、臨床の場でもっと多くの視覚障害児に接し経験を有している方が今回の講師には相応しかっただろう。

とても分かりやすいお話で、勉強になりました。次回も楽しみにしております。

子供の視力の成長から丁寧に解説くださって、眼鏡の必要性がよくわかりました。

個人の診療所に勤務しているので、弱視の小児や、補装具、治療用の眼鏡等に触れる機会が少ないので、勉強になりました。

"福岡県では弱視等治療用処方箋発行する際に弱視を伴わない斜視(間欠性外斜視等)でも弱視の病名をつけないと役所が許可を出さない地域があり、全く使えないことがあります。

全国的にその様なことが起きている実態調査をしていただいて各役所の間違った認識を改善して貰えたらと思います。"

仕事でどうしてもオンラインで見られない時もあるので、後日配信があるので助かります。ありがとうございます。

以前に知人から、お子さんが学校で目の検査に引っ掛かり、眼科受診に付き添った時、お子さんが視力検査で答えられず「真面目に答えなさい」と叱ったと言いました。晴眼者の方には見えにくいというのが想像できない方が多いですね。お子さんの場合は早期発見早期治療で将来の見え方に大きな差が出来る事を広く広報しないといけませんね。

医療用眼鏡の意味や制度についてよく理解することができました。弱視の治療としての役割のある眼鏡の場合、治療用として補助が出る一方で、遮光眼鏡等、本人にとっては必要な装具であっても補助が出ない物があることも初めて知りました。制度的な面でもっと視覚障害もしくは、視覚に何らかの困難さを抱えた子ども、青年、大人が利用しやすい制度になっていくことも大切だなと感じました。次回以降も楽しみにしております。貴重な場を御提供いただき、心より感謝申し上げます。

眼鏡を掛けたがらない小児への対応、工夫などあれば教えていただきたいです。

今まで勉強してきたことの復習にもなったし、すごく分かりやすい言葉を使って話してくださったので、自分が説明するときの参考になりました。

話の内容が、非常にわかりやすくてよかったです。また、図を口頭で説明するなど、スライドが見えなくてもわかる配慮がされており、助かりました。

とても参考になりました。ありがとうございました。

眼鏡の適切な管理方法について

こちら側の通信状況なのかわかりませんが、音声聞き取りにくいところがありました。

講義内容が実践に則した内容で非常にためになった

貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。お子さんたちの「見る力」あるいは「見る意欲」を伸ばすためには、今回教えていただいたような基本情報を学校で働く教員にも共有することが大切だと思います。

小児患者は多くないので、このような知識の確認ができる機会があってありがたく思う。

3歳児検診他、今のお子さんはこれだけ手厚く検査が出来ていとうれしくなりました。私共の子育ての時代にはなかった！唯、この情報を子育て中のご家庭がどのくらい知っているか不安です。私は、加齢黄斑変性症を患っています。片目は治療不可失明、片目は注射打ちながら、強制視力0.5です。強度の近視の方は、若くても罹患する恐れがあるそうです。お子さんの近視が増えているそうです。子育て支援の方・保育に関わる方にも、この講座を見て頂きたいと思いました。

今後も有意義な情報をご教授下さい。

弱視治療用眼鏡の助成について理解できました。ありがとうございました。

視覚障害者がテレビを見た時に説明として何を聞きたいか、例えば、リンゴなら形、色、大きさ、食べる人の表情など適切な情報をお伝えするためにロービジョンの方々はどうな情報を欲しているか勉強したいです。

乳児用眼鏡の具体例を提示してくれたのはよかったが、例示されたものは特定地域でしか入手できないので、全国的にどこでも入手しやすいものを紹介してもらえればなおよかった。

職場の中でもなかなか学ぶ機会やツールが無く、他職種から口頭で教えて貰う程度だった。今回の内容はとても沢山の学びがあり、普段視能訓練士がやっている事の根拠や注意点が理解できて、本当に良かった。

視能訓練士にとっては既に知っている情報がほとんど。医療従事者とその他の人、両方が満足する講義を作成するのは困難なのだと感じた。

少し聴き取りづらかった。

勉強したい内容だったので、充実した講義だった。専門用語が少し難しかった。

表4 第2回「視覚障害者の補装具および日常生活に関する実態調査報告」についての意見

発表内容は良かったのですが、別途、補装具についてもう少し踏み込んだ話をお聞きしたいと思いました。

日常生活用具の給付を受けておきながらほとんど使わず放置されていることがあるというお話の中で使用方法の説明が必要なことは確かだとは思いますが、障害当事者も給付していただいた以上は有効に使うことを積極的に考える必要があると思います。

講師の先生に聞きたい事が色々出てきました。視聴者からの質問時間を設けて欲しかった。

今回も様々な利用者が白杖や眼鏡についての利用状況の把握ができ役立った。白杖、眼鏡についても眼科でどこで入手できるかについても教えてもらう流れができるとよいと感じている。

白杖と歩行訓練がセットであるように、日常生活用具は買って終わりではなく、使いこなせるようになるために訓練、時間が必要ということをご紹介するときにセットでお伝えすべきだと再認識しました。わかっていたつもり、知っていたつもりのことをきちんと数字にして明らかにしてくださった講師の先生の研究に感謝です！引き続き、よろしくお願いいたします。

詳細な実態調査に対しては敬意を表したいと思う。今回はその調査結果の報告が目的だったので、当該調査をどのように今後に生かすかという点の言及はほぼなかったが、もし次回の機会があれば、当該調査によって得られた改善点と思われるものをどこへどのような手段で活かして行くかを具体的に言及していただきたい。また、講演中段で述べられていた「補装具を探した場所」で眼科からの白杖の割合が少ないことについて指摘があった。しかし、現状眼科には歩行訓練士が常駐している訳もなく視能訓練士がいたとしてもすべからずロービジョンに精通している人がいる訳もなく、出来たとしてもせいぜい情報提供程度しかできないのが眼科である。それを思えばここで示された16%程度は出来過ぎのように思える。眼鏡、遮光眼鏡は視覚補助具であり眼科が主体となるべきではあるが、白杖を眼科に期待するには無理があり、歩行訓練士協会なりが自治体の障害福祉課に積極的に働きかける必要を覚える。

よく当事者向けのアンケート調査への協力依頼があり、可能な限り回答するように努めているところですが、今回のように実態調査による回答への報告を行っていただくと、より実態を知る契機ともなり、調査回答にも意味があることに気づくよい機会だと思いました。今後も、引き続きこのような機会を設定して頂きたいと思います。

選定したそのときには合っている、病状が変わったり生活が変わったりでずっと使い続けられないことはあり得ます。特に高額な日常生活用具は、購入ではなく、月単位や年単位でレンタルできるような仕組みがよいと思います。ところで、白杖に訓練が必要なのはよく分かりますが、遮光眼鏡や眼鏡における訓練というのはどういう内容をさしているのか疑問に思いました。

不要になった補助具の再利用をもっと活発に運用できるシステムがあると、手帳をもらえない病気の方に役立てることができるのでぜひ、お願いしたいです。

メガネ指導をしても、医療者・患者は、それに対して訓練している・されているという感覚を持っていないかも知れないと感じました。しっかり説明・指導はしても、訓練すると患者に伝えた事はありませんでした。

情報の周知が十分でないことが明らかにできたことで、今後の対策に繋がることが期待させますいつもありがとうございます。家内が視覚障がい者なのですが、毎月、市の福祉施設で視覚障がい者の集まる会があります。必要と思う情報は皆様と共有させて頂いております。ありがたい勉強会です。継続してお願いいたします。

今回のご講演では調査結果の数字のみが紹介されていましたが、白杖を複数持つ／持たない、使い分けをする／しない、歩行訓練を受ける／受けない等の理由が知りたかったです。

貴重な機会を設けていただき、誠にありがとうございました。

個人的には質疑応答やディスカッションなどを交わす時間が15分くらいあるといいのかなと感じました。勉強会に参加されている方々のいろいろな立場からの生の意見を共有できたりすると有意義なものになるのかなと感じました。

ありがとうございます。次回以降も積極的に参加させていただきたいと存じます。

矯正眼鏡の訓練とは具体的に何を指すのか知りたかったです。

アンケートの結果のご報告は、詳細でまとまっていて、とても解りやすく勉強になりました。ありがとうございました。

白杖を複数持つお話や災害時用に白杖を用意していた話は勉強になりました。私は視覚障害者向けに映像を言葉で伝える仕事に日頃従事しております。解説放送に求めること、表現の仕方など、何かヒントがあればと参加しており、機会がありましたら当事者たちから教えてほしいと思います。

補装具をお持ちの方の実際の様子がうかがえて勉強になりました。道具を受け取ってから使えるようになるまでを考えて説明をしていく必要性を感じました。

大変貴重な調査結果だと感じました。実施されたことに敬意を表します。感想ですが、おそらく参加者の手帳等級や疾患には偏りがありそれをからめた考察が頂ければと思いました。また途中（結果のところ）で、補装具の話なのか、日常生活用具の話なのかが分からない部分がありました（話の流れからは推測できるのですが）。これらについては、論文化をお待ちし、論文で確認させていただければと思います。「支援者、当事者ともに制度のことをよく知る必要がある」

「道具を手に入れる前にその必要度をよく考えること、入手後に訓練や練習が必要なことを当事者は理解し、支援者は伝えておくことが求められる」、という点が印象に残りました。特に日常生活用具は医師の意見書不要で購入できることから、展示会や眼鏡店ですすめられて安易に申請・購入してしまうケースが多く残念に思っています。これらについて対応を提案していただければ嬉しいです。高齢者、認知症の方などには丁寧に説明をしても難しいことがあり日々の診療で苦慮しています。

使っていない日生具を寄付した・処分したという回答に対し、転売したと決めつけるような言い方をしていたのが気になった。全部が不適当な方法を取ったのではないと信じている。

またこのような研修会をたくさん行っていただきたい。

調査報告というだけあり細かい数値の発表だったが、講師の先生の最後のまとめが的確で参考になりました。

当事者の補装具へに意識についていろいろ知れてよかった。

昨年受講していなかったこともあり、調査の対象者についてもう少し詳しく説明してほしかった。

情報提供だけでなく活用方法や評価の重要性を教えてくださいました。ありがとうございました。リアルタイムで参加できないので、後日配信はとてもありがたいです。いつもありがとうございます。

取得したが使わなくなった補装具の種類や理由が具体的だと参考になったと思う。

講師の方が視覚障害当事者でもあるからなのか、内容は全て読み上げてくれたり、画面も背景色を黒で文字が白抜きなど、視覚障害当事者参加者として、わかりやすかった。

補装具と日生具の区別を知りました。補装具等、しまい込まないで、使いまわしができる制度と機関が出来ると良いと思いました。補装等を受けるときは、学んだうえでお渡しすることの大切さを知りました。障害者特別支援法で、支援出来る物が、地域によって違うのは改善してほしいです。行政・医療機関も支援法を知らないので学んでほしいです。

補装具や日常生活用具の課題についても触れて欲しかった。

始めて知る事ばかりで勉強になりました。『買ったけど余り使わない』とおっしゃる方は確かにいたので、他にも同じ様な方が居ると知れただけでも大きな収穫です。私自身は余り介入する機会がありませんが、購入検討の際の声掛け、参考にさせていただきます。

視覚障害者団体の役員をしておりますが、様々な調査結果を拝聴し、当団体としても、これから声を大にして発信することに意味があると思い、団体としても更に活動を大きくしたいという思いに感じました。とても良い内容に感動し、これからめ頑張ろうと思います。

当事者のリアルが勉強できてよかったです。

わかりやすい聞きやすい発表だった。スクリーンリーダーを使っている割合や訓練を受けたことのある割合から、視覚障害者施設に現在もつながっている方々、補装具や日常生活用具を活用できている方々の回答結果であることがあらわれていりと感じた。実際にはもっと訓練を受けたことのない視覚障害者や補装具や日常生活用具を知らない方々がいるように思う。使えなくなった補装具や日常生活用具の活用できる方法を考えていかなければならない、ということには大賛成である。

日常生活用具につきましてはけっこう話題になることが多いのですが、補装具のことはあんがい知っているようで知らないことが多いので、勉強になります。

表5 第3回「補装具としてのコンタクトレンズ—現状と課題—」についての意見

今回急遽通院に行ったことで、タイムリーで見られず、でも、アーカイブでしっかり見る事ができてよかったです。また、職場の同僚の方にも今回2名新たに研修受けたいと言われて参加されてます。知っておくことの大切さ、学び続けることの大切さを感じてます。今回は、少し難しかったですが、現在進行形で動いている情勢のことなども交えながら話もして下って勉強になりました。ありがとうございました。

コンタクトレンズにハード・ソフト以外にいくつか種類があり、視力が改善するが視覚障害の範囲なら補装具給付を受けられることを初めて知りました。

今回のテーマでしたコンタクトレンズの現状と課題に関しての理解を深めるよい機会でした。補装具にコンタクトレンズが該当する理由が今回の講演でよく理解することができたと思います。ありがとうございました。重要なことなので、視覚障害当事者及び支援者以外の一般にもこの種の講演をアーカイブ視聴することにより社会からの受容・共感が得られるのではないかと思います。

コンタクトレンズが補装具として申請できることは存じておりましたが、今回のような専門的なことは何も知りませんでした。大変勉強になりました。ありがとうございました。

コンタクトレンズが補装具に該当することを初めて知った

コンタクトレンズの知識が無くとても興味深く拝聴しました。貴重なお話ありがとうございました。

補装具の見直しを厚労省へ依頼する場合、効果的な方法はどのようにすればよいのでしょうか。円錐角膜が難病に入るとは知らなかった。私自身円錐角膜なので難病に含まれて良かったと思います。

視能訓練士として働いていた時、円錐角膜の患者様にコンタクトレンズの処方希望の方があり、私は先輩訓練士の仕事を側で見ているだけの立場でしたが、カーブが強く、コンタクトレンズ会社も含めてこれ以上の対応は出来かねるという感じで終わらせていました。せめて困っている患者様にこの情報を伝えられたらと思って聞いていました。忸怩たる思いです。

とても良い勉強をさせて頂きありがとうございました。

コンタクトレンズの事は全く知らなかったのですが、あまり興味がなかったのですが、アーカイブスで聞くことができました。その結果とても良い勉強になり、こういうコンタクトレンズというものがあるのだと初めてわかりました。とても良い企画でした。ありがとうございました。

視覚障がい者の方々の解説放送利用率

知らないことばかりでとても勉強になりました。

コンタクトが合わないと何年も探し求めている方の相談を聞いているので大変貴重なお話でした。いつもありがとうございます

とても丁寧にご説明くださりわかりやすかったです。

使い捨てソフトコンタクトレンズが有用であるにも関わらず、公費や障がい者としての基準の面から、なかなか認め難い現状があることを知ることができました。

とてもわかりやすい講義でした。

虹彩付きレンズ、円錐角膜に対してのピギーバック法や補装具申請しての専用ハードレンズの対応など、件数は多くありませんが、個人のクリニックとしては割と扱っている方だと思います。

私自身が強度近視にて小学校高学年よりコンタクトを利用していたこともあり、コンベのソフトコンタクト、ハードコンタクト、ディスポのソフトコンタクトと使用経験があることで眼鏡よりも見やすい状態になり少しでも患者さんの生活が楽になると良いと思い日々対応しています。

地方にいる為なかなか大きな学会に参加するのも難しい状態ではありましたが、オンラインでの勉強会などが増えたことで情報が得られ、本当に勉強になります。ありがとうございました。

加齢黄斑変性症です。物が見たいとメガネに拘っています。コンタクトレンズも視野の内？

補装具と生活用具の違いが分かりました。

今回のお話はポイントが絞っており、大事な点がよくわかった。大変勉強になった。

現状及び課題について知ることができましたが、少し理解が追いつけず、難しかったです。

しかし、知る機会を得られたことはとても良かったです。

大変勉強になりました。ありがとうございました。

表6 第4回「義眼について学ぼう 第2弾」についてのご意見

義眼使用者です。更新のタイミング、洗浄の仕方など、改めて学習する機会となりました。ありがとうございました。

今回のイベントに参加して補装具としての義眼について学べたことがとても有意義な時間でした。視覚障害当事者でもなかなか個人が用いない補装具としての義眼のことを理解する機会がないことだと思います。今後も継続的な情報発信をお願いできれば社会的な理解がより深まるものだと感じたところです。今回、企画頂いた主催者並びにご講演頂いた講演者の方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

手入れの方法を初めて知りました。オーダーメイドも知らなかったです。情報ありがとうございます。とても勉強になりました。

義眼についてより詳しく知ることができ学びになった。

義眼をお願いできる業者さんは限られたところしか知らない。お話を聞いてみないをお願いするにも躊躇するのでいろいろな義眼屋さんのお話が聴けるのはうれしい。今回、丁寧に対応していただけることがよく伝わるお話であったので、当科の患者さんもお願ひしてみたいと思った。

たまたま、次の日に 40 年以上、義眼を装用されている方が受診され、お手入れをお聞きしたら水ですずっと必要な時だけ洗っていたとのこと。早速、HCL での洗浄液でコットンかティッシュで、アルコールはダメとスタッフをも含めお伝えしたら、へえ〜と聞いていた全員が一斉に答え、タイムリーに受講してよかったとしみじみ思いました。

初めて聞く内容でしたのでとても勉強になりました。ありがとうございました。

現在医療職ではありませんが視覚障害者支援に関わっていますので義眼のお手入れの仕方が参考になりました。

補装具として購入する場合の助成金を実態に近づけて上げて欲しいと感じました。

眼科にいても直接義眼のケアに携われないので、とてもよかった。

盲学校にいますのですが、身近に義眼の人がいるものの、詳しいことは何も知らなかったもので、大変いい勉強になりました。ありがとうございました！

義眼についての知識がなかったので大変勉強になりました。お話もわかりやすく実践的で参考になります。

義眼の取り扱い方は初めて聴きました。患者は義眼を作って 10 年、20 年作り替えていないという話をよく聞く。こまめなメンテナンスを指導したいと思う。

義眼の装脱着やお手入れ方法など基本的なことがわかりやすく、大変勉強になりました。

初めて知ったことが多く、とても勉強になりました。今後もよろしくお願いします。

義眼についてこれまで今回のように詳細に聞いたことがなく、大変参考になった。ただ 1 点、スライド上の強調する文字部分が背景色と同じようで見にくかったことが残念。事前に主催者サイドでチェックし、コントラストに関するアドバイスされることを希望する。

義眼に付いて具体的な知識を得る機会が少ないので今回拝聴出来て良かったです。ありがとうございました。

全く知らない内容も多く、とても参考になった。義眼ユーザーの方もいるが、長年使っており、ほとんど身体の一部になっているため、聞いても全然問題無いと答えるので、何も聞き出す事ができませんでした。次のセミナーの機会があれば、事例などもあげていただけると、興味があるので助かります。

貴重なお話ありがとうございました。緑内障にて失明したのですが、現在、自分は眼圧が安定しており問題なく生活しておりますが、眼圧が上がったさいには、眼球摘出手術も考えなければならないと医師から告げられております。摘出後は義眼を使用することとなるため、とても参考になりました。

義眼の詳細については、知らなかったもので、勉強になりました。

義眼について学ぶ機会がほとんどなく、昨年度もこの勉強会で学んだのみ。今年度も義眼についてお話しをしていただき、大変よかった。

この動画は義眼を必要とされている方をターゲットとして作られているのだと思いますが、私はそもそも義眼を何のために使うのだろうということがわからずに見ました。義眼があれば見えるようになるわけでもないし、何のためにわざわざ使うのだろうという単純な疑問です。そのご説明があればなお良かったかなと思います。でも、自分で調べてみたのもう大丈夫です。貴重な機会をありがとうございます。

個人的に、1番『待ってました！』な講義でした。ありがとうございました。

義眼について具体的に知ることができ、とても参考になりました。申請や手入れ方法などもとても分かりやすかったです。ありがとうございました。

義眼を利用している方と過去に沢山出会ってきたが、正しい知識を学ぶ機会がこれまでなかったので、もっと早く勉強すればよかったと思った。動画も交え、非常にわかりやすい講義をありがとうございました。

わかりやすい講義でした。ありがとうございました。

義眼の存在は知っていましたが、勉強会を通じて正しい知識を得ることができ、とても良かったです。また、周りの仲間にも正確な情報を今後伝えることができそうです。ありがとうございました。

表7 第5回「他障害について学ぼう 聴覚障害者への公的支援」についての意見

聴覚障害の手帳の等級、補聴器などをわかりやすく説明され、とても勉強になりました。ありがとうございました。

貴重なお話ありがとうございました。補聴器のことがよく理解できました。

とても勉強になりました。講義の進め方も素晴らしく参考にさせていただきたいと思いました。他科の専門医師に講義を受けた事が無かったのですが、説明が本当に分かりやすく構成されており、言葉も理解し易いものに変えて下さっていたと思います。眼科の学会や講話でも、早口で話す演者や、分量が多過ぎて理解できない時も私は多々ありますが、今回はしっかりと頭に残る話しでした。感謝しています。きっと患者さんや相手に寄り添える優しく優秀な先生なのではないかと思いました。

本当にありがとうございました。聴性脳幹反応 ABR は他覚的所見が類推できる機器だとお話にありましたが、等級を2級から6級に分類できるものなののでしょうか。他覚的所見が取れるのは素晴らしい技術ですね。基本的な知識からコミュニケーションツールまでお教え頂きありがとうございました。それから19時ぴったりに終わったのがさすが凄い先生と思いました。これからのご活躍もお祈りしております。

視覚障害以外の他障害「今回は、聴覚障害者」の公的支援に関するお話をお聞きする機会を得て大変学びとなりました。各障害支援団体が団結し、連携することで共生社会の実現に向けて取り組むことが大切であることに気づかされました。また、当事者間で交流することで、思いや悩みに共感し、相互の特色・強みを生かした新たなアイデアやヒントが生まれてくる予感に大いに期待を持つことにつながる気がします。今後ともこのようなテーマを企画に盛り込んでほしいと思いました。ありがとうございます。

患者さんで弱視ろうの子がいて、今すごく深く関わっているので、知りたいと思っていた内容ばかりでした。ありがとうございました。

他の障害の事は全く知識がないため、講師の方の説明がとてもわかりやすくなった。

脳に伝わるしくみがとてもよくわかった。視力とおなじでなかなか調整が難しいように思われる今回の勉強会は、とても先生のお話が丁寧で、親切で、わかりやすくて、障害者の立場に立った最高のお話でした。また先生のお話をお聞きしたい気持ちです。本当にありがとうございました

毎回アーカイブを配信していただけることが大変ありがたいです

補聴器支給の件、両耳障害の場合、片耳の補聴器しか支給されないとの話を聞いたのですが、これは本当でしょうか。

視覚以外の障害について学ぶことが出来て、大変良く理解できました。

視力が病で衰えている。聴覚も年齢的に少し弱い。今後の対処方法を学びたいと思った。

非常に聴きやすく分かりやすい内容でした。

初めて聴覚障害についてのお話を伺い大変勉強になりました。

視覚障害者(弱視)と右耳突発性難聴でほとんど聞こえません。耳の聞こえ方、障害者としての福祉用具、最近の聞こえのための補助用具とても勉強になりました。視覚障害者の福祉用具もずいぶん改善されてますが、聞こえのためのものもずいぶんスマホを使って開発されているのだと知りました。先生の話もとても聞きやすかったです。視覚がなくてもとてもよくわかりました。

私は視覚と聴覚の両方に障害がある盲ろう者なので、今回の企画はとてもありがたく、内容もたいへん参考になりました。

他障害を勉強することは良いことで否定するものではないが、その前に当勉強会とすれば先にやるのがいくらでもあるように思う。当勉強会の趣旨からすれば、例えば眼球使用困難者や片眼失明者に対する救済の検討等、他障害を勉強する以前に考えなければならない問題は山ほどあるはずである。

視覚障害者だけではなく聴覚障害者に関する知識が深まり勉強になりました。

とても良かったです。ありがとうございました。

丁寧でかつ非常にわかりやすい内容で、大変勉強になりました。同じ感覚器と言うことで、盲ろう患者も増えている中、聴覚障害について学べたのは、大変有意義だったと思います。

大変わかりやすく、興味深い内容でした。ありがとうございました。

値段の話をもう少し詳しく聞きたかったです。補助があるといくらになるのかとか

視覚障害者ですが聴覚も衰えていますので今回のテーマは非常に勉強になりました。

患者に高齢の方も多く、難聴者で補聴器をまだ使用していない方もいますので、現在の補聴器事情を少しでも知ることができて良かったと思います。

補聴器についてよくわかった。より良い補聴器を提供するための耳鼻科医、メーカー、販売店のシステムがあることが分かった。また、この連携が国への要望に生かされていることもわかった。眼科領域でも参考にできることが多いと感じた。

私は視覚障害のみです。お話はとてもわかりやすく1時間はあっという間でした。

後日オンラインで参加させていただき内容については良いと思いました。どちらもすべてにチェックが入っていましたのでここに記入させていただきました。

補聴器の選定に協会に加盟している店舗での購入が信頼できることは良くわかりました。

耳鼻科で勤務されている言語聴覚士は、どの程度職域があり補聴器を作成するのに信用できる立場なのでしょうか？

視覚障害者の中にも難聴の方が増えてきているように思います。聴覚障害のこと、補聴器のことをわかりやすく説明していただき、大変参考になりました。ありがとうございました。

母がかなりの難聴でミライトを含む5種以上の補聴器や集音器を購入してもどれも聞こえない、音を大きくしたら、うるさい！と。この理由も解けて、健常者の老人の補聴器選びにもとても勉強になりました。耳鼻科では補聴器をするほどではないとのことですが、友人との会話も難しくなっており、専門職のおられるところで、再度、相談したく思いました。光が見えました！最近では視覚障害と聴覚障害を重複して持っておられる方もおられるため、とても参考になりました。

なかなか聴く機会がない分野でしたので興味深く拝聴させて頂きました。わかりやすい言葉でお話ししてくださりありがとうございました。

正しい知識を分かりやすく学ぶことができ、充実した時間だった。

聴覚障がいについて、包括的に分かりやすく勉強できました。ありがとうございます。

難聴があつて眼の手術を受けに来る方も多いのですが、難聴の分類によって対応方法を変えたら良いとわかり、とても参考になりました。ありがとうございました。

今回の先生のお話はとても聞き取りやすくわかりやすいでした。

当事者として拝聴いたしましたが、改めて聴覚障害とはどんなものか、また、最近の補聴器などのことも把握でき、身近な方へのちょっとしたアドバイスにもつながり、拝聴して良かったと感じました。しかしながら、なかなかイメージとして想像できなかった場面はとても残念に。。。ありがとうございました。

聴覚障害について、わかりやすく話されていて、よく理解できました。補聴器の選択や補装具の仕組みについても初めて聞く情報で、今後役にたつと思います。

私は視覚障害者で青森県の盲学校の理療科の教員をしていましたが、現在は無職です。先日の講演をうかがいわかりやすいお話にとても感動いたしました。盲学校の理療科では解剖学とか生理学ということで感覚につきましても勉強いたしますが、伝音性難聴と感音性難聴があることは初めて知りました。とても勉強になりました。ただ、講演された方のお話の中に手帳を有している方へお補助額の具体的におはなしがなかったのが残念でした。

表 8 第 6 回「リアルユーザーから学ぼう 補装具・日常生活用具の活用報告」についての意見

当事者からのリアルなお話を聞くことができ、良かったと思います。同じ当事者として再確認することができました。今回、お話しして頂きましたことに感謝しています。

当事者の生の声が聞けて良かったです。どうもありがとうございました。

医師は診察だけでなく、QOL を上げるための情報を患者に提供して欲しい。特に中途での視覚障害者は情報を手にいれにくい。仕事や学業で忙しい方が、申請から受け取りまでに時間がかかるという理由で実費で購入する事も有ると知って役所のスピーディーな判断をお願いしたい。

内容的にものたりなかった。

実際に制度利用されている方の生の声を聴くことができ、非常に学びになりました。

当事者からの学びで、分かり易く勉強になりました。

実際に補装具を申請された方の生の意見を聞くことができて良かった。

貴重なお話をありがとうございました。

実際に使用された方のお話を伺うことができ、これから患者様にどう関わって、どのような情報をお伝えしたらよいのか、とても参考になりました。

ユーザーのお二人のお話が整然としていて、分かりやすく、和やかな雰囲気でも聞きやすかった。お二人とも訓練の必要性を話されていたと思うが、特に講師の方が言われた「見方、とらえ方の訓練が有用であった」は非常に印象的であった。補助具等の道具を使う以前における視能訓練の必要性を言われたようで、このことは眼科医や視能訓練士が患者の視機能を正確に把握し目の使い方をアドバイスすることがロービジョンケアの一步であることを示されていると思う。

リアルに使っている方の経験は参考になりました。また情報提供の必要性を感じます。1番最初に関わるであろう医療職の方の知識とその方に合った提案が必要なタイミングでなされる事を望みます。

講師の方が、欲しいと思った時にすぐに手に入らないからほとんど自費で購入している、とおっしゃっていました。お金がある人はそれで良いかもしれませんが、そうでない中途障害者には参考にならない意見であると同時に、この点は行政が介入して改善していくべき大事なポイントだと思いました。手帳発行に1ヶ月はまだ仕方ないとしても、補装具や日常生活用具に1ヶ月はかかりすぎだなと私も思っていました。手元に遮光眼鏡が届くまで当院のものを貸し出ししたこともあります。この辺の制度の改革ができないものかと思いました。

この度のお話はちょっとレベルが低かったのではないかと感じております。なぜかと申しますと視覚障害者の日常生活に関する情報が実に劣悪だったことです。補装具が破損したようなことばかりが何回も強調され、聞いていて飽き飽きいたしました。視覚障害者の日常生活用具はもっともっと色々な物が指定されており、地域によってもかなり異なります。もう少し経験豊富な方にお話いただかないと実態が把握できないと存じます。日視連（日本視覚障害者団体連合会）の方など、もっと経験や知識の深い方にお話いただければと感じました。

白杖をネットで買うとか、考えられませんでした。そのよし味があるのだと教えていただきよかったです。白杖もいろいろ試してみるのが良いのかと思いました。拡大、読書器も考えています。今回の研修会で教えていただいたこと、参考にしたいと思います。オンラインを聞けてとても良いと思います。

この勉強会は、行政職員にとっても有意義な内容だと思います。

ネットを使いこなせていない方からの意見も聞けたらと思います。高齢になり、日本点字図書館へ通うのが難しくなって、白杖のゴムを替えるのも一苦労などの話も聞きます。

先ずは、お二人にお礼致します。とても参考になりました。私も、障がい者総合支援法を利用、拡大読書器を手に入れることが出来ました。お礼を兼ねて通院時、持参しました。先生他看護師さんも実物を見たのは初めてだったそうで、診察室で盛り上がりました。拡大読書器の説明をネットで読めることも知りました。今回の講座を参考に視点を広げ、弱視用メガネの詳細・スマホの弱視者用アプリ・リンクポケット調べ(製造中止の由)について知識を広げています。

補装具や日常生活用具の使用体験ができる場所などの情報の入手方法を知りたい。使用者の行動範囲によって行ける場所が限られてしまうこともあるし、体験できるものが多ければ選択肢が増えると思うので。

実際の活用場面での工夫についてもう少し聞けたらよかったです。

表9 第6回「ロービジョン関係者間の連携について」についてご意見

視能訓練士、福祉機器販売店、歩行訓練し、眼科医、当事者などの連携が進まないとうまいかない。これを推進してもらいたい。

実際に補装具としての申請、開発にはお金がかかる中で業者の生の声を聴くことができとても良かった。これからも役立つ商品の開発、販売努力に期待しております。

エッセンバツハでは東海光学とのコラボレーション商品があり、当日のテーマが関係者間の連携ということだったので、同じロービジョン機器を取り扱う会社同士の連携に至った軽など具体的な話題提供があつてもよかった。最近、連携をテーマに語られることが多いが残念ながらあまり特色のある話は聞けなかった。

PDF等の資料配布があれば更に理解が深まりそう

大変勉強になりました。ありがとうございました。

そもそもロービジョンという言葉の馴染みが低いと思います。初めてこの言葉を聞いた時、漠然としたイメージでよくわかりませんでした。最近では、悩み事の相談を受けると、ロービジョンの眼鏡屋さんに行つて下さい等平気で言つてしまいますが、やはり親切さに欠けると反省しています。何気なく使うロービジョンという言葉はそれ程浸透したくないという基本的なことを知るべきだと思います。眼鏡屋の大手が必ずしもロービジョン製品を扱ってない理由も理解出来ます。

タイトルから期待していた内容と違っていました。

いつもありがとうございます。今年度も大変お世話になりました。

疑問に感じていたことや、実際にどのような状況にあるのか、また、他の障害のことについても言及があり、大変勉強になりました。そして、何より、案内やアンケート等のアクセシビリティがきちんとされていることに感謝申し上げます。ストレスなく対応することができました。

市町村行政職員も交えた勉強会だと良いと思います。

内容が、普段お話しが聞けないとても良いと思います。後日配信もありがとうございます
連携の具体例がもう少し示されるとよかったです。事業者としての連携がどのような形になるのかについて、あまりイメージができませんでした。

各種補助具の存続に協力できることがあつたら、学校でも協力していきたいと思いました。

普段なかなか接点をもてない業者の方のお話は大変参考になりました。貴重なお話をありがとうございました。

大変興味深い内容でした。

せつかくなのでどんなルーペを取り扱っているか紹介があつてもよかった

業者さんからの視点で見た補助具、日常生活用具を取り巻く現状と課題を教えていただきました。ありがとうございました

ユーザーの方のお話をお聴きさせて頂きとても勉強になりました。眼鏡の使用目的などきちんと説明しているつもりでも、ロービジョンの方にはより丁寧に説明する必要がある事も再認識しました。ロービジョンケアに直接携わってなくても、情報提供だけでもする必要があることも改めて感じました。

いつもお世話になっているメーカーさんの立ち位置や考えがわかり、非常に参考になりました。

有難うございました。販売価格と希望価格の違いを知る事が出来ました。加齢黄斑変性症の患者です。右目は文字が読めず、左目も2ヶ月に一度注射を打ち0.4を保っています。家中ルーペだらけ。ルーペの倍率と大きさ・重さにいつも悩んでいます。補助具で、矯正メガネと弱視用メガネがあることを知りました。詳しく知りたいです。

どの回も、とても勉強になっています！

資料1 視覚系補装具勉強会アンケート調査 調査項目

1. 勉強会についてのアンケートに回答することに同意しますか

☐同意する

2. 本アンケートに重複して回答していませんか

☐重複回答していません

3. 勉強会に参加された方の年齢を教えてください。

1つだけマークしてください

☐17歳以下 ☐18～20歳 ☐21～30歳 ☐31～40歳 ☐41～50歳 ☐51～60歳

☐61～70歳 ☐71～80歳 ☐81歳以上 ☐回答したくない

4. 住んでいる県を教えてください

(回答したくない時は「回答せず」と記載ください)

5. 該当するものを教えてください。

当てはまるものをすべて選択してください。

☐視覚障害当事者 ☐視覚障害者家族または支援者 ☐眼科医 ☐眼科医以外の医師

☐視能訓練士 ☐看護師 ☐その他医療職 ☐研究者・エンジニア

☐教員 ☐教員以外の教育関係者 ☐歩行訓練士 ☐その他

6. 上記の所属についての質問で⑪教員以外の教育関係者または⑫その他にチェックをされた方は職種の詳細を教えてください。

その際、個人情報につながる具体的な組織名や所属機関名の記載はお控えください。

回答したくない場合には空欄で構いません。

7. 勉強会に参加した方法を教えてください

1つだけマークしてください

☐リアルタイムで参加

☐後日オンラインで参加

☐リアルタイムで後日のオンライン両方

8. 第〇回「〇〇〇〇」の内容について教えてください

1つだけマークしてください

☐非常によい ☐良い ☐普通 ☐悪い

☐非常に悪い ☐参加・視聴していない ☐回答したくない

9. その他ご意見がございましたご記載ください

個人を特定することにつながる可能性のある情報（氏名や所属機関・所属の固有名詞等）の記載はお控えください。